

乗鞍岳の「適正利用」

- 何を目指し、どう取り組むべきか？ -

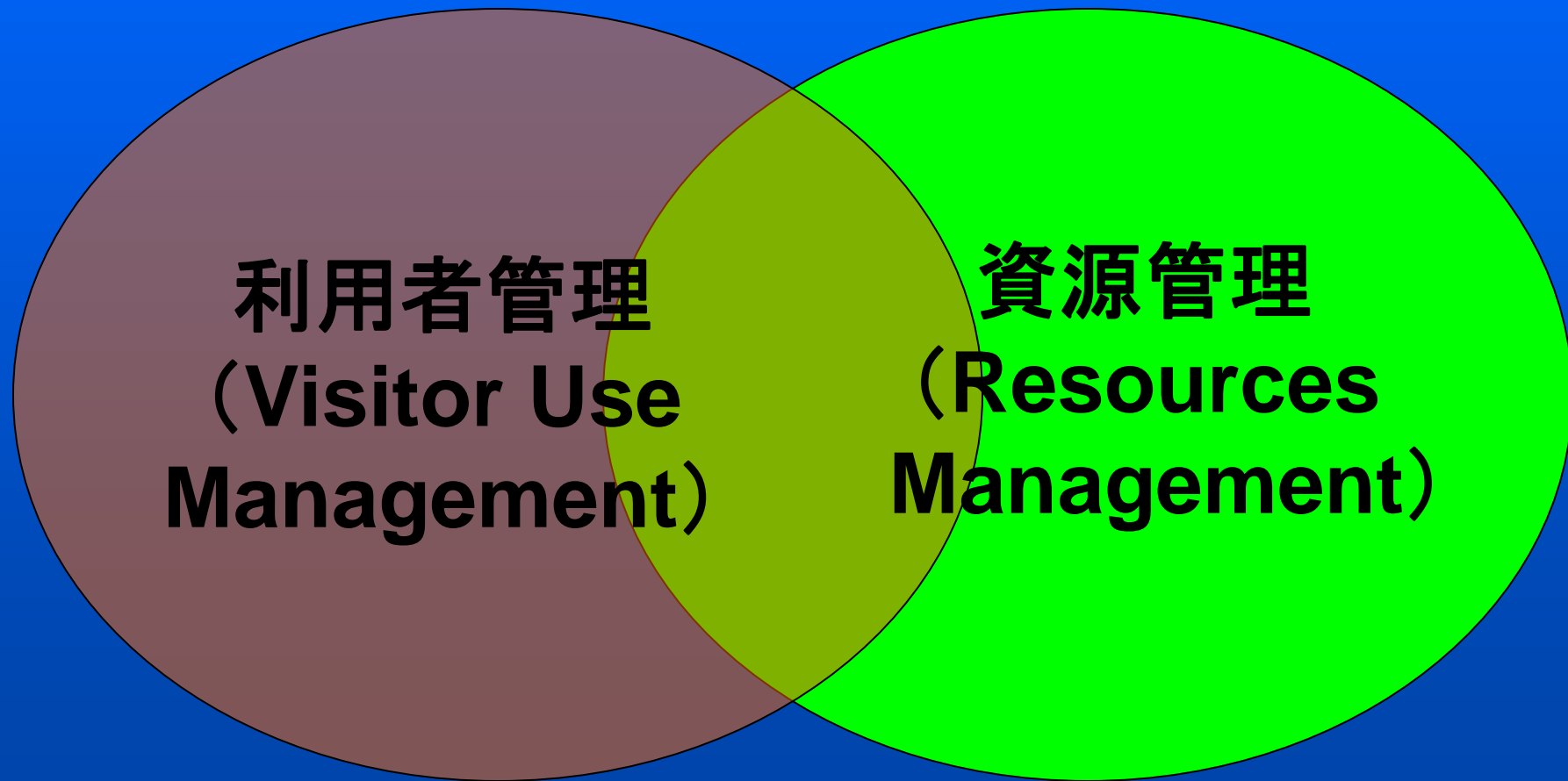
2013年12月14日「乗鞍フォーラム」

加藤峰夫

今日の報告項目

- 自然地域の「適正利用」を考える基本枠組
- 乗鞍岳の利用の現状
- 乗鞍岳の「適正利用の推進」のための取り組み方針

自然公園における2つの「管理」 —「資源管理」と「利用者管理」—



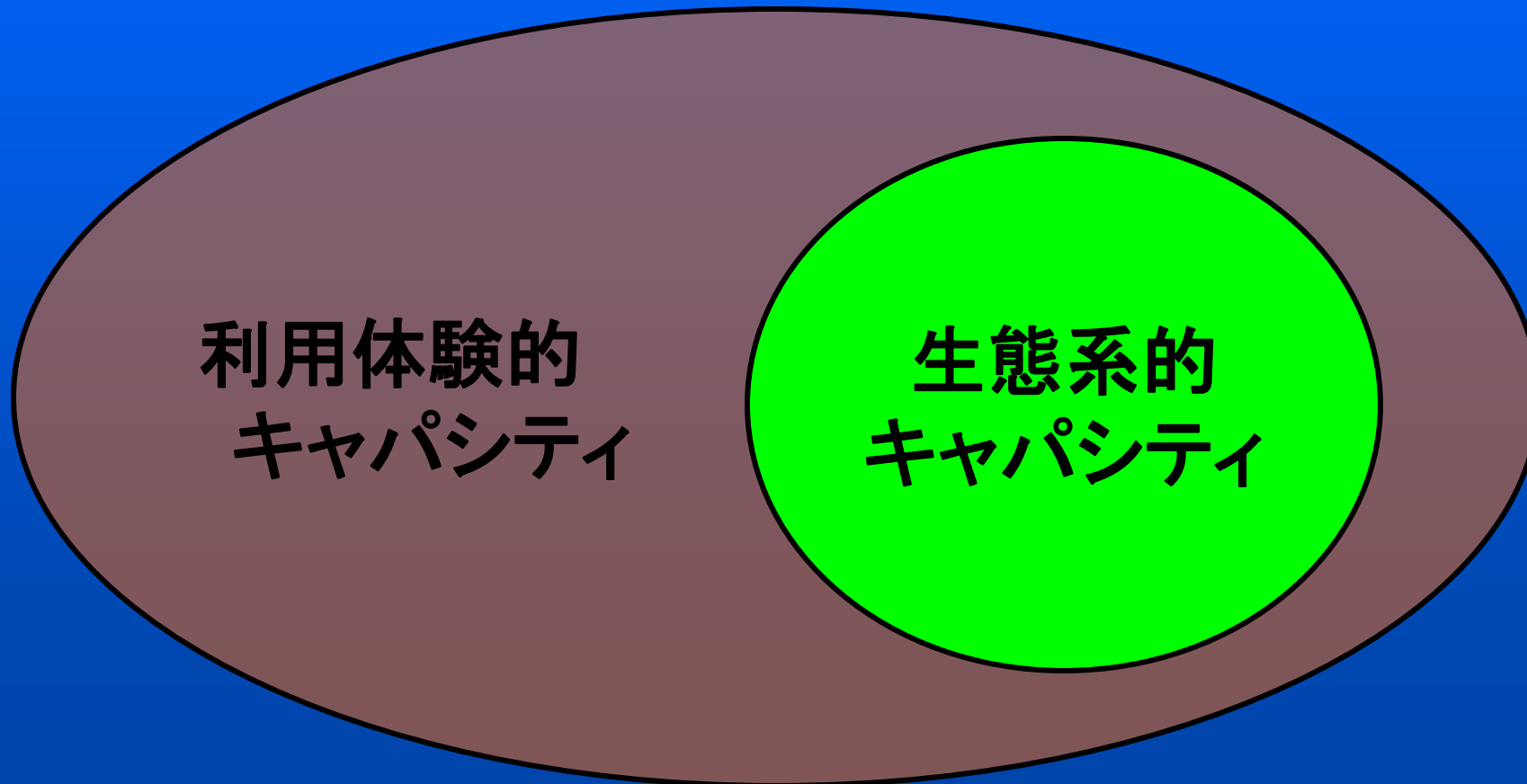
利用者管理 (Visitor Use Management)

それぞれの自然公園で
「保護すべき自然(生態系)」と
「提供すべき利用体験」の確定

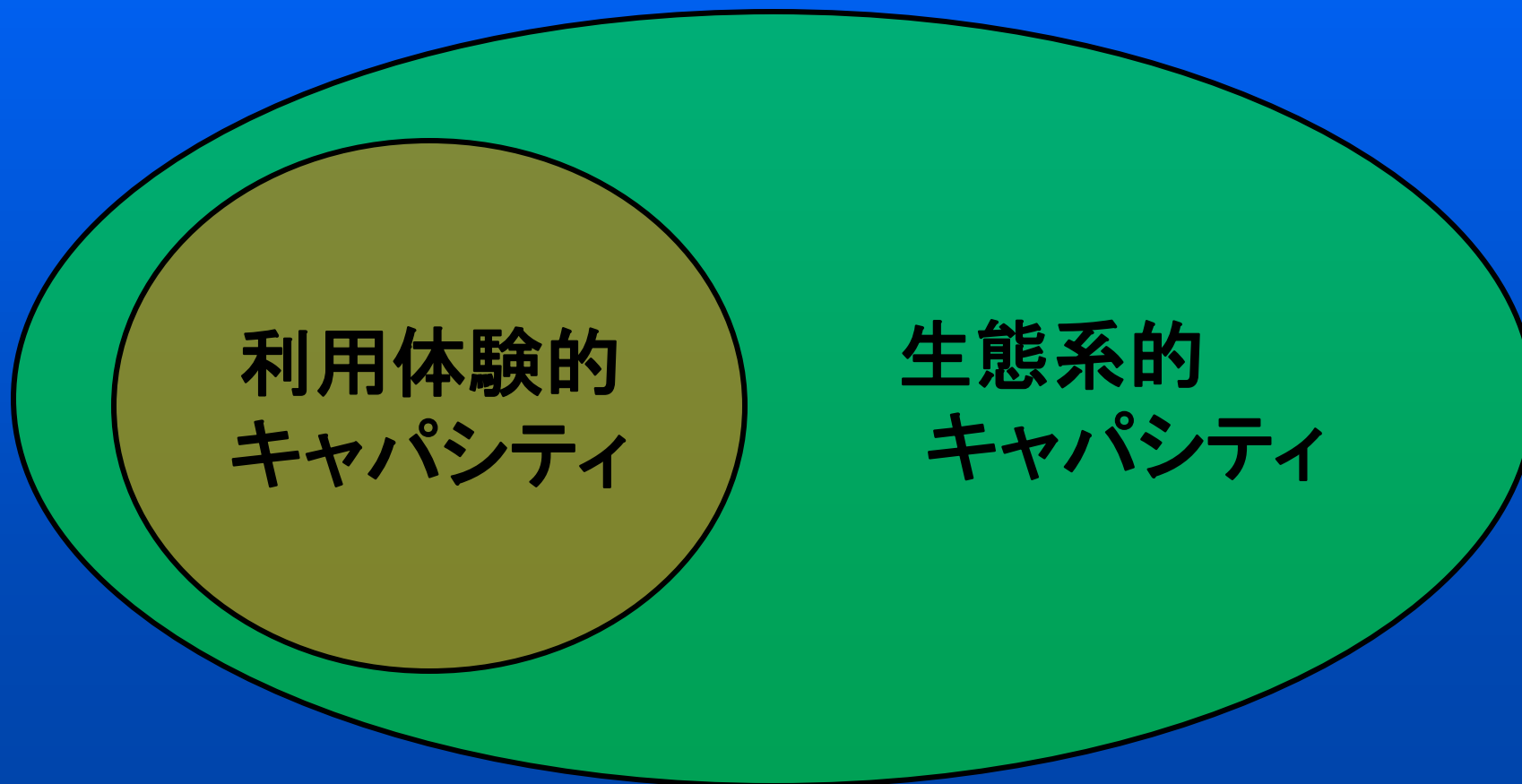
適正収容力の設定

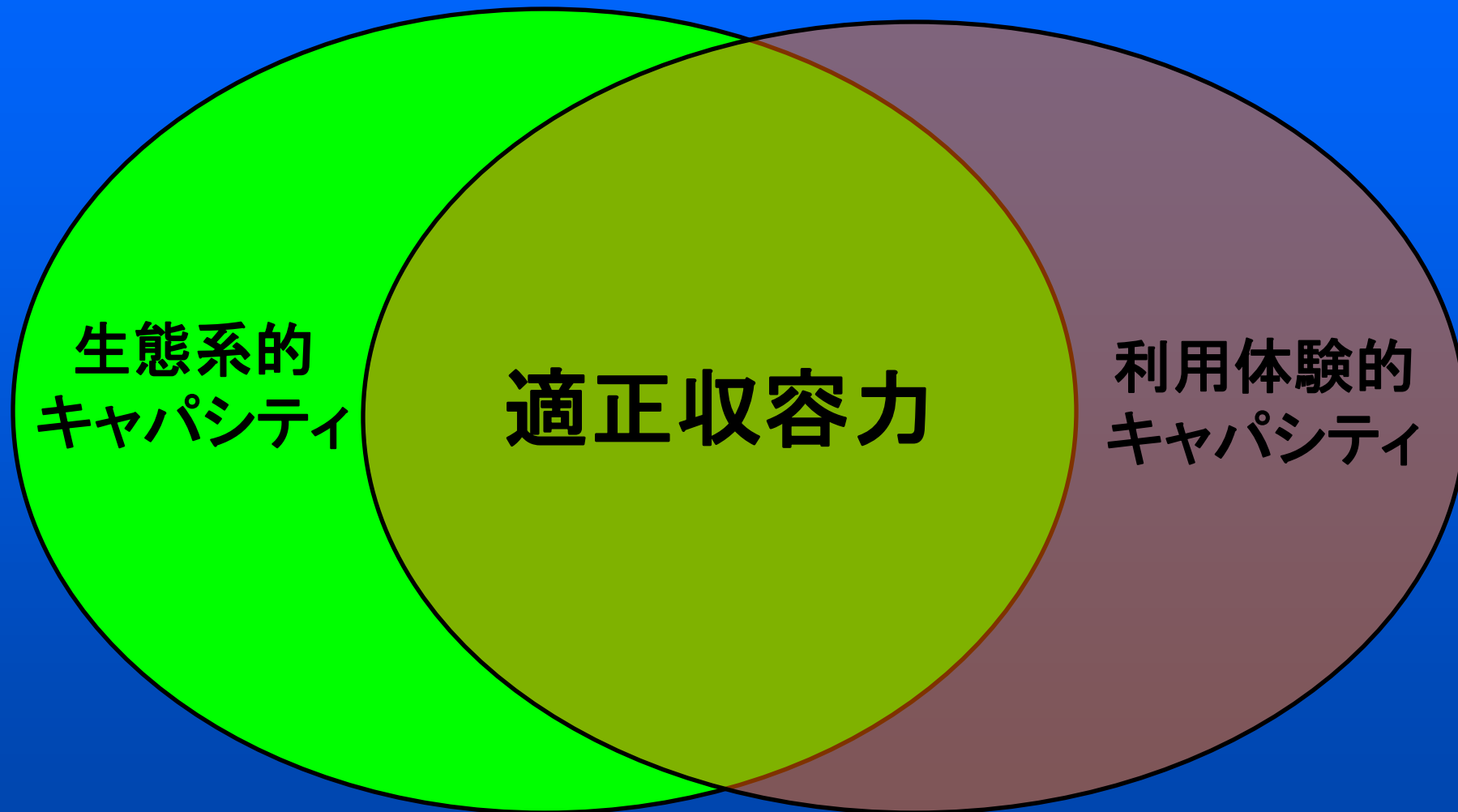
収容力に基づいた
管理(利用調整)の実施

「生態系的キャパシティ」が最終的な 収容力の決定要因となる場合



「利用体験的キャパシティ」が最終的な収容力の決定要因となる場合



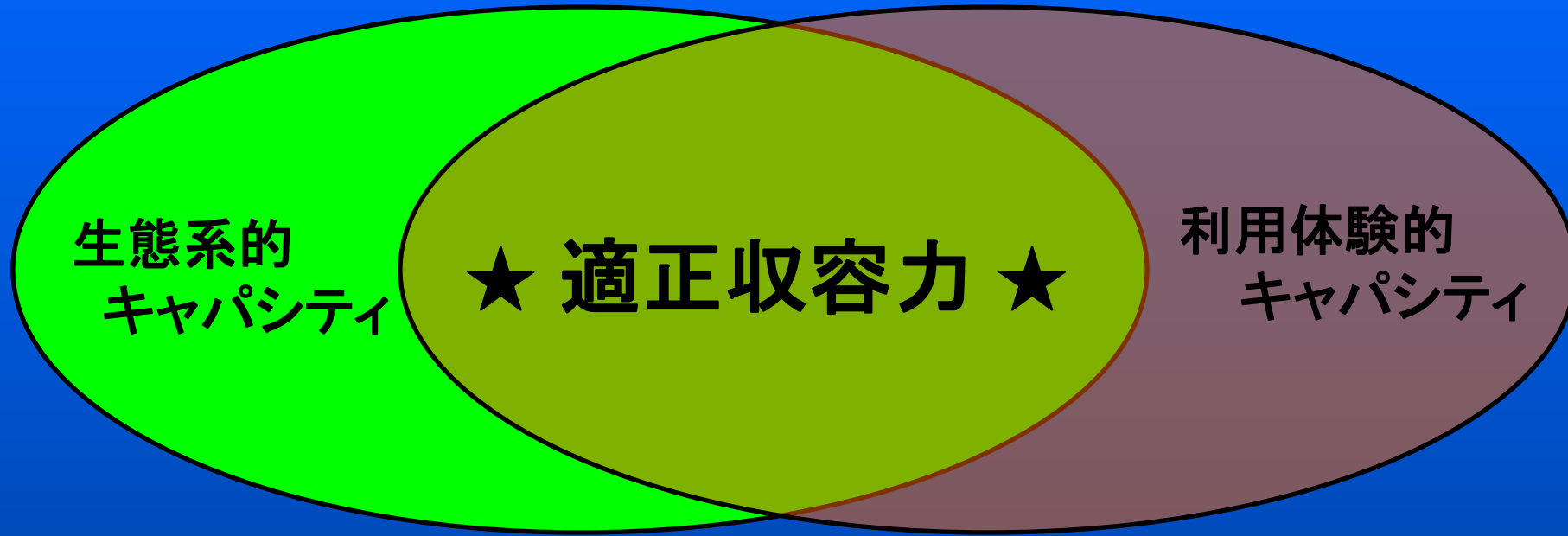


生態系的
キャパシティ

適正収容力

利用体験的
キャパシティ

各国立公園の基本理念と管理原則



関係組織の管理能力

地域の人々の受容力

乗鞍岳の利用の現状(スカイライン利用者)

- マイカー規制(2003年)「以前」は 推計42万人前後(1997~2001年平均)。
- マイカー「規制後」、2003年は23万4千人 → その後は 16~21万人前後。
(2012年 164,946人、2013年 166,299人)
- 繁忙期の利用者数(通常は お盆前後)は、2013年度は 4,500~5,500人前後。
- マイカー規制以降、「自然環境」は「良好な状態に回復し保全」されている。
- 「利用環境」(施設等)面でも大きな不満は出ていない(もちろん、適切な管理・誘導・指導が行われていることが前提)。
- **現在の乗鞍岳は、「生態系保全と良好な利用体験提供の両面において、一応は『適正な収容力』の範囲内にある、といえるのではないか。**
- しかし、「利用者が何人までならば、適正な利用の範囲内なのか？」について答えることは難しい(というよりも、現状では回答は不可能)。

「適正利用を推進する」ための方針(案)

- ① 乗鞍岳の場合は、利用を、現在の状況から、その『量』(利用者数や滞在時間等)と『質』(利用態様等)のどちらか、あるいはその両面において、少しずつ増加・拡大させる。
- ② その結果を慎重に観察し、問題が生じる兆しが見られた場合はその原因となる利用の拡大を抑制し、問題が生じないようであれば利用推進対策を継続・推進する。

★★ いわゆる「順応的管理」★★

乗鞍岳の「適正収容力」の検討と「順応的管理」の手順

